

Link Web IPU

このマークの記事の詳細は  
岩手県立大ホームページに  
掲載しています。

URL / <http://www.iwate-pu.ac.jp/>

特集1 新学長に聞く!

# 新学長に

# 学生がインタビュー

CONTENTS

02 **特集1** 新学長に聞く!  
**新学長に学生がインタビュー**

04 **特集2** トークセッション 教員と学生による対話集Vol.1  
**自分を大切にしていますか?  
～人間の生と性を考える**

06 **特集3** 県大コラボ 滝沢村IPUイノベーションセンター開設  
**市町村が公立大学施設内に整備する  
全国初の産学連携サポート施設が誕生しました。**

08 **教員紹介**  
学才浪漫・学びを究める

09 **卒業生紹介**  
夢を生きる・卒業生の今を知りたい

10 **在校生紹介**  
元気です県大生

12 **IPU通信**

新学長に聞く！



# 新学長に

# 学生がインタビュー

岩手県立大学は、4月1日、中村慶久新学長をお迎えしました。中村学長は、電子工学、磁気記録工学の研究者として多大な功績を残されていますが、なかでも世界に先駆けて開発実用化に成功した垂直磁気記録技術は、現在世界のスタンダード技術として全世界で採用されているほど画期的な研究です。今日普及しているHDD（ハードディスクドライブ）の小型大容量化には、中村学長の開発した技術が生かされています。

就任早々の中村学長を学生参加型広報誌としてリニューアルした県大広報誌『IPU』にお迎えして、県大に寄せた夢や期待を、学生がお聞きしました。

## 50年ぶりに ルーツに戻りました

**松本** ●早速ですが、学長就任が決まった時、どんなことをお考えになりましたか。

**学長** ●県大のことは、もちろん以前から知っていました。祖父の代までは、代々滝沢村で農業を営んでいて、私自身も中学高校の多感な時代を盛岡で過ごしました。50年ぶりにルーツに戻ったわけです。父親までは滝沢生まれ。馬3頭のいる曲り家に住んでいた。父は無線技術者です。私の生まれは東京です。

## 大学の知力を どう生かすかが課題

**菊池** ●県大の印象はどうですか。建物と環境の関係やここに県大があることの印象

象ですが。

**学長** ●よく環境を生かした建物だと思えます。大学があることによって地域の活性化につながると思う。学生が大学の近辺に住んでいるかと思ったら、意外に村外から通っている学生が多いのは驚いた。先日、滝沢村IPUイノベーションセンターが開所しましたが、企業が大学周辺に立地して、ショッピングセンターなどができて、遊ぶ場所もできて、やがて町ができるんじゃないかと思うのですが。大学周辺にイノベーションパークを造る構想もあるので、時間をかければ夢じゃないね。

**菊池** ●町を造る場合、大学の役割はどんなことが考えられますか。

**学長** ●まず、環境とマッチした町づくりが必要。大学は、県や県民のシンクタンクとなって、地域に応える、地域を担ぐ

大学となる役割がある。大学の知力をどう生かしていくかも課題。県民の要望に応える学部連携が重要でしょう。リーダーシップのとれる大学であってほしい。

## 地域のリーダーになれる 人材を育成したい

**佐々木(梓)** ●学生に何を望みますか。

**学長** ●私は、優秀な学生に恵まれてきたと思っています。研究してきたことを開発から企業化へと進めてくれたのは卒業生でした。2002年のノーベル化学賞を受賞した田中耕一さんは私の講義を受けていますよ。県大は、県民の願いを込めて創設された大学ですから、地域のリーダーとなる人材を育成したい。

**佐々木(理英)** ●県民の願いというのは、どんなことですか。

### ●学生Profile

- 松本 唯美さん(社会福祉学部2年、滝沢村出身)
- 菊池 茂さん(総合政策学部4年、北上市出身)
- 佐々木 梓さん(社会福祉学部1年、釜石市出身)
- 佐々木 理英さん(社会福祉学部1年、遠野市出身)
- 高橋 亜友美さん(総合政策学部3年、北上市出身)
- 山川 裕香さん(社会福祉学部3年、富山県南砺市出身)



**学長** ●そうだね、そこをしっかりと学生は認識する必要があるかもしれない。県大は、岩手で育った県民の子弟を岩手の地で、県内外はもちろんだだけでも、世界で活躍する人材に育てあげてほしいという、県民の願いを込めて創設された大学です。いわば、「県民の、県民による、県民のための大学」です。岩手は広く、豊かなところもあれば、そうでないところもある。豊かな地域には、必ず有能なリーダーがいます。そんなリーダーを育てて地域にもどりたいし、地域に付加価値をもたらす意欲ある人材を育てたいと思います。





## 学内でダンスを踊り、 音楽が聞こえる大学に

**学長** ● ところで、逆に質問したいのだけれども、学生の活動の様子が見えないけど、みんなどうしてるのかな。

**高橋** ● サークルやイベントが無い限り、みんな帰りますね。構内で余暇を過ごすことは考えられないかも。

**学長** ● 大学の周辺に住んでいないことも関係あるのかな。菊池くんはどうしてるの。

**菊池** ● 実家から通っています。片道2時間かかります。

**学長** ● 時間がもったいない気がするね。



岩手県立大学 学長 **中村 慶久** (なかむら よしひさ)

1940年生まれ。岩手県立盛岡第一高等学校卒業、東北大学大学院工学研究科博士課程修了。工学博士。専門分野は、電子工学・磁気記録工学。東北大学教授(電気通信研究所)、東北大学電気通信研究所所長、(独)科学技術振興機構JST イノベーションプラザ宮城館長を経て2009年4月1日より岩手県立大学学長。東北大学名誉教授。

県大周辺が大学の町になって、大学の周辺に学生がもっと住むようになる、状況は変わってくるのかな。大学近くに住む人が増えて、長く構内にいることができる環境になるといいね。県大をそのよいうな大学にしたいと思います。私としては、学内でダンスを踊ったり、音楽を演奏している学生の姿を日常の中で見てみたい。ボランティアの学生や運動部や文化部の活動も知りたいと思います。

できれば、年に1回は全学的な催しをやりたいと考えています。宮古短期大学部にも来ていただきたい。学生がやりやすと言ってくれば、大学は全面的にバックアップしますよ。

**山川** ● そうすれば、もっと学部間の交流も活発になるでしょうね。全学スポーツ大会とかあるといいですね。地域の方もお招きしたいし、企画や情報をもっと学生が知ることのできる工夫が必要だと思います。

## 学長の名に恥じない 学長でありたい

**高橋** ● 最後になりますが、学長は、どのような学長でありたいですか。

**学長** ● 私は、学者とは思っていないのです。たまたま、自分のテーマがあったから続けてきた。教授という意識も実は無いのです。自分なりに目標をもって地道に生きてきた。そして、今ここにいるというわけです。ですから学長ってなんだろうと考えています。学長の名に恥じない学長でありたいとは思っています。ただ今、県大をどうすれば、もっと良い大学になるのかを勉強中です。小さいことからコツコツとやりたいと思います。



## 歩く母性看護学登場!?

**山川** ● 県大広報誌「IPU」初の学生企画コーナーへみなさんようこそ! 学生ボランティアアセンタールから広報誌編集に参加し後方からアドバイスをしている山川です(笑い)。

さて、今回は最初のトークセッションなので、一応「自分を大切にしていますか?」人間の生と性を考える」というテーマを設けましたが、テーマに縛られることなく自由にお話を進めていきたいと思っています。

**福島** ● では、まずは私から。私が大学で何を教育しているかを最初にお話しするべきですね。私は、看護学の中でも、母性看護学、助産学、女性健康看護学を教育・研究しています。妊娠・出産のメカニズムをもった女性だからこそその健康支援やサポート、性の健康問題などが主なテーマです。菊池くん、性と聞くとどんなことを思う?

**菊池** ● え? うーん、生物学での性かな?

**渡辺** ● 性を学問的に思うイメージがあるけど。性ってなんだろう?

**福島** ● 性と聞くと、いやらしいことやSEXをイメージすることが多いのですが、性という字をよく見て考えてみて。りっしんべんが心を表しているの、心を持って生きる、あるいは心ある生をもつ、それが性だと考えたいんです。

**菊池** ● 女性は女性らしく、男性は男性らしく生きるってことですか?

**福島** ● どんなものが女性らしさか、どんなものが男性らしさかを考えなければならぬのですが、言えるのは自分の性:つまり男とか女とかがってことだけでなく、

自分の心のあり方とか自分の存在を認めて生きることが大切だということ。私は、もともと助産師ですから、命はかけがえない大切なものだと思います。どんな命にも意味がある。だから一人ひとりの存在のすばらしさを伝えたいと思っています。私には、自分で歩く母性看護学と言っているのですが(笑い)。

心ある生を生きるには、どうすればいいと思いますか?

# にしていますか?

## ~ 人間の生と性を考える

Link Web IPU

**菊池 茂** 総合政策学部 4年  
Kikuchi Shigeru

**山川 裕香** 社会福祉学部 3年  
Yamakawa Yuka



**【山川 裕香】** 社会福祉学部3年。富山県南砺市出身。学生ボランティアセンターが企画実践するホームレス支援活動のプロジェクトリーダーを務める。高齢者介護のケースワーカーを目指している。



### Profile

**福島裕子** 看護学部准教授  
千葉大学看護学部看護学科卒、岩手大学大学院教育学研究科修了/修士(教育学) / 研究領域: 岩手県の周産期医療における助産師の専門性や連携、思春期のリプロダクティブヘルス(性と生殖の健康)に対するケアや健康教育 / 担当科目: 母性臨床看護論、助産診断学、助産技術学、女性健康看護学 / 助産師として医療現場に従事、その後教育・研究の道へ。

## メールで恋愛できるかな?

**山川** ● 難しいけど、いい恋愛すると、心に良いよね、心いっぱい使っし(笑い)。

**菊池** ● なんて、恋愛の話になるのかな。

**山川** ● いや、そう言われると直接関係ないとは思って。思春期のカウンセリングをする「ピアいぶ」では、メールでの恋愛が問題になっていると聞いたので気になって……。みんな経験ある?

**福島** ●「ピアいぶ」は県大の学生が、中高生と同じ目線で思春期の健康問題に向き合い共に考える活動を行っており、私も顧問をしています。出会い系サイトなどで知り合った高校生が、メールだけで恋愛している例は、そんなに珍しくないんです。恋愛がダメというのじゃなく、メールだけというのが問題。先ほどの話で考えると、心が薄い、関係が希薄です。

**菊池** ●会わないままで、恋愛は成立するんだらうか？

**福島** ●面と向かって会うと言えないことをメールで書いてくることで気持ちはゆるるよね。

**菊池** ●なんかずるい気がする。

**山川** ●それは男性に多いんじゃないの(苦笑)。

**菊池** ●偏見です!(笑い)。

**福島** ●昔は手紙だった。源氏物語の世界。待つという時間があった。待つて怒る、心配する、時間の「ため」があった。待つ時間の恋愛はつまらないと思うし、心が込められない。なんか嘘っぽい気がします。

**山川** ●ほんと関係が希薄だと思う。ふれあうことに慣れていないからかな。

## 人を好きになれる人は 愛されて育った人

**福島** ●心を持って生きるという話題から言うと、人を好きになれる人は愛されて育った人です。愛されて育ったという基盤が無いと、好きという気持ちを素直に表現できない。相手を束縛しようというDV(ド

# 自分を大切

教員と学生が身近な話題から現代社会の問題まで自由に話し合うトークセッション。  
講義では聞けない疑問、珍問なんでもありの学生企画コーナーです。

特集2 トークセッション  
教員と  
学生による  
対話集 Vol.1

Cast

**福島 裕子**・看護学部准教授  
Fukushima Yuuko

**渡辺 琴乃**・看護学部 1年  
Watanabe Kino



【渡辺 琴乃】看護学部1年。宮城県大崎市古川出身。渡辺家4人姉妹の末っ子。授業だけではわからないことを自分で学びたいと思っている。



【菊池 茂】総合政策学部4年。北上市出身。学生ボランティアセンターとアシストに加入している。盛岡西警察署と協力し少年の非行防止活動や児童センターでのボランティア活動に参加。

メスティックバイオレンス) のようにもなる。人間は親から愛されて育つことで自分を大切にできるし、好きな人ができて相手とのことを大切にできます。愛されてこなかった人は自分に自信を持ってないし、心ある生を生きていけないのです。

**渡辺** ●母原病のようなことですか？

**福島** ●母原病というのと、母親だけが原因のようですが、育児には、父親の存在も大切ですよね。

**菊池** ●父親は目標になる存在だと思うけど。自分の父は農業をやっていますが、なんでも自分でやる。農業機械も自分で直してしまふ。小さい頃は怖い存在でした。

**福島** ●思春期に父親が論外になっていることが多く、母親が自分で問題を抱え込む傾向があります。特に、男の子にとって父親は重要な存在で、私は、ある時期、子どもは父親に叱ってほしいと思っているんじゃないかと感覚的に感じます。

男の子をもつ母親としてはね、そう思います。

**山川** ●なにやらテーマに近づいたり遠のいたり、まるで恋愛みたいなトークセッションでした(笑い)。今後ともこんな感じで、じらしたり謎かけしながら(笑い)、まじめに考えていきたいと思えます。次回をお楽しみに、みなさんありがとうございます。



# 滝沢村IPU イノベーションセンター開設

Link Web IPU

特集3



県大コラボ  
IPU collaboration

滝沢村IPU  
イノベーションセンター

[プロジェクトメンバー]

産 (有)エポテック  
(株)V&V  
(有)ホロニック・システムズ  
(株)ワイ・デー・ケー  
(株)オレンジソフトテクノロジー

学 岩手県立大学  
官 経済産業省  
東北経済産業局  
岩手県、滝沢村

市町村が公立大学施設内に整備する、  
全国初の産学連携サポート施設が誕生しました。

岩手県立大学では、教育・研究のテーマの一つに地域貢献を掲げています。  
学びのフィールドを地域に求め、学びの成果を地域に活かす取り組みを、  
県大と地域のコラボレーション（共同作業）として紹介します。

産学連携促進と  
実学実践の場を  
提供

滝沢村IPUイノベーションセンターは、岩手県立大学と滝沢村との連携のもとに、経済産業省、東北経済産業局、岩手県の支援を得て、滝沢村が建設した施設です。主にソフトウェア開発、ITシステム関連の企業のために、産学連携促進と実学実践の場を提供する施設として活用されます。

滝沢村IPUイノベーションセンターの開所に際して、岩手県立大学と滝沢村は、「相互連携に関する協定」を締結しました。協定は、岩手県立大学と滝沢村とが、相互連携により地域経済の発展と岩手県立大学における教育・研究活動の推進に貢献することを目的としています。

高まる  
地域産業振興  
への期待

岩手県立大学の周辺地域は、岩手県や滝沢村が策定してきた諸計画において、産学官連携による産業創出や産業集積を図るエリアとして位置づけた場所であり、岩手県立大学と滝沢村においてIT関連産業の集積に向けた取り組みが進められています。

平成21年3月策定の「（仮称）滝沢村IPUイノベーションパーク整備計

## 立地企業が寄せる県大への期待

(有)エポテック  
代表取締役  
保田 和成さん

デジカメなどデジタル機器向けの組込みソフトや動画圧縮技術の研究開発を県大と協働で進める予定です。重要なのは人材育成と教育の支援。企業での実践研究を通して学ぶ場を提供し、優れた人材を育てたいと思います。

(株)V&V  
代表取締役社長  
井上 健司さん

県大に期待することは、現状の産業を考えぬいた教育をしてほしいということです。学生には、学んだことを知識に終わらせないで、自分たちでカスタマイズしてほしい。技術だけでなく人間としてどうありたいのかを自分で語れる人間になってほしいですね。

(有)ホロニック・システムズ  
代表取締役  
檜山 稔さん

大学の目の前という好立地を活かすためにも、大学との情報交換を密接にしたいと考えています。特に大学に期待したいのは、学部を越えたつながりから生まれるアイデアの広がりです。できれば定期的な話し合いの場を設けていただきたい。

(株)ワイ・デー・ケー  
取締役テクノロジーズ  
カンパニー社長  
石井 由策さん

県大は実学実践の大学ですから、研究者や学生が実際に実務に関わっていただきながら研究開発を進めたいと考えています。組込みソフトウェアの開発も手がけているので、研究室との共同テーマを設けて連携を深めたい。大いに期待しています。

(株)オレンジソフトテクノロジー  
代表取締役  
末久 高平さん

県大のイメージは、企業の実務に即した人材が育っているという印象を持っています。組込み技術は、まだ成熟していません。より高度な技術レベルの達成をめざして、大学とともに優れた人材の育成に努めたい。優れた技術者には、学力と知識と理論が重要です。

1. 滝沢村IPUイノベーションセンターは、県立大学地域連携研究センターと連結しています
2. 多くの関係者を集めて開かれた開所式
3. 柳村村長と立地企業代表のみなさん
4. 開所式でのテープカット。左より、井上健司株式会社V&V代表取締役社長・宮舘壽喜岩手県副知事・根井寿規東北経済産業局長・柳村典秀滝沢村長・中村慶久岩手県立大学長・角掛邦彦滝沢村議会議長
5. 相互連携に関する協定書に調印し固い握手を交わす中村慶久岩手県立大学長と柳村典秀滝沢村長



### 滝沢村IPUイノベーションセンター 施設概要

- 開所/平成21年5月1日
  - 場所/岩手県岩手郡滝沢村滝沢字巢子152-378
  - 構造/鉄骨造2階建 延床面積1,087㎡
  - 研究室/入居部分 12室 (約33㎡6室、約42㎡1室、約53㎡3室、約68㎡2室)
  - その他/会議室、談話室、リフレッシュコーナー、事務室、給湯室、コピー室等
  - 駐車場/無料
- ※1、2階でそれぞれ岩手県立大学地域連携研究センターと連結



### 開所あいさつ

滝沢村長 柳村典秀

滝沢村IPUイノベーションセンターは、岩手県立大学が有する優秀な人材や多様な研究成果を活用し、企業が抱える技術的課題の解決や新技術の研究開発を支援するとともに、新たに研究開発型企業の立地を促進するための拠点となるものであります。

本センターの設置により、実務演習を通じた更なる人材育成と滝沢村の産業振興に向けての支援・協力がよりいっそう推進しうるハード・ソフト両面の基盤が整ったものと大いに期待しているところでございます。

滝沢村と岩手県立大学は、「相互連携に関する協定」を締結いたしました。協定締結により、滝沢村と岩手県立大学とは、今後も連携をいっそう強化しながら、盛岡広域ひいては岩手県の地域振興のため努力してまいりますと存じますので、関係各位の皆様にはさらなるお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

画」では、岩手県、滝沢村、岩手県立大学が協力し、県内最大規模の「IT関連産業の集積拠点を目指した(仮称)滝沢村IPUイノベーションパークを整備し、地域産業の開発力や競争力を支える、「IT開発拠点の形成をめざすことが提唱されています。

「IT関連産業の集積拠点は、大学のもつ人材育成や研究開発のノウハウを活かした特徴ある地域づくりのモデルケースとして注目され、地域経済の活性化や新たな雇用の創出などが期待されています。

# 学才浪漫 学びを究める

Professor's Voice

## 美しさを求め、思いやりを持とう

Link Web IPU

●総合政策学部教授 山田 一裕

山田教授の教育・研究活動の原点には、「命の源である水」を持続ある資源として守らなければならぬという強い決意があります。「大阪出身の私は、小学校時代に光化学スモッグをリアルタイムで経験しました。水は命の源ですから、水問題を勉強することで公害を無くしたいという気持ちで、中学生ぐらいからわいてきました」

大学に進んだ山田教授は、技術だけでは環境は良くならないと感じるようになり、市民活動や環境教育にも関心が向いていきました。大学院修了後、生協に就職しました。「周囲には、なぜ専門分野ではなく生協なのかという疑問があったようですが、生協は環境活動に熱心な集団であると考えたからです」

その後、青年海外協力隊（モロッコ、水質検査隊員）を経て、研究者としての道に進んだ山田教授ですが、環境をテーマとすることにゆらぎはありませんでした。

現在、山田教授は、水生植物ヨシを使つた省エネ型浄化システムの研究に取り組んでいます。他の生物に影響を与えることなく水質を浄化するモデルとして注目されています。

「学生には、自分は何のために専門を学んだのかを真剣に考えようと常に語りかけています。環境をこわさないで持続可能な社会のためにどう生きていくべきかを考えてほしいのです」という山田教授。「美しさと思いやり」を考えると自ずと道は見えてくるはずだと山田教授は考えています。



【やまだ かずひろ】

1989年、東京理科大学大学院工学研究科工業化学専攻修士課程修了。博士（工学）。専門は、水環境管理、環境生態工学、環境教育。1989年4月～1991年3月、生活協同組合都民生協（現コープとうきょう）勤務。1991年4月～1993年4月、国際協力事業団青年海外協力隊に参加、水質検査隊員としてモロッコ王国に派遣され、水質調査研究とともに技術指導の任に就く。2009年4月より総合政策学部総合政策研究科教授。NPO法人環境生態工学研究所理事。滝沢村水道事業経営審議会会長。

## 常に物事をプラス思考に考える

●宮古短期大学部講師 神谷 厚徳

神谷講師が、英語音声学に注目したのは、英語音声学の学会に参加したときでした。「英語の音に興味があって、大学2年の時に学会に参加しました。初めて学会という専門組織に触れ、圧倒されました。研究発表や講演を聞いても、専門用語が多く理解できなかった」という神谷講師は、独学で英語音声学の本を読みあさったといいます。研究者となった神谷講師は、これまで英語の「プロンディー」研究に取り組んできました。「プロンディーとは言語の韻律のことで、言葉を学習する上での重要な要素です。私は、英語母語話者と日本人英語学習者の英語イントネーション・リズムに注目して、日本人が苦手とする個所や重点的に学習すべき点を明らかにする研究を行ってきました。リズムとテンポの関係は今後も継続し

て研究していこうと思っています」

また、英語音声教育の専門家でもある神谷講師は、現在、プロジェクト研究「視覚障害学生の英語発音指導のための点字式発音記号やイントネーション符号の開発」に連携研究者として参加しています。視覚障害のある学生に対する英語教育の現状を調査し、パソコンを改良するなどして、記号や符号の点字化を完成させる研究です。

「障害のある学生にも学びとコミュニケーションの機会を提供したいのです。英語習得に限らず大事なことはコミュニケーション能力です。私は、学生の視点で考え話すことを心がけていますが、学生には常に物事をプラス思考に考えよと指導しています。つまらないことにくよくよしないで、若者らしく元気であってほしいと思います」



【かみや あつひろ】

2008年、関西学院大学大学院言語コミュニケーション文化研究科博士後期課程満期退学。修士（文学）。専門は、英語音声学、英語音声教育。日本英語コミュニケーション学会、日本英語音声学会に所属。2004年、日本英語音声学会奨励賞受賞。2008年4月より、宮古短期大学部講師。担当科目は、基礎英語、総合英語、上級英語など。著書に、英語音声学会（編）「英語音声学辞典」共著（成美堂）、学術叢書英語音声学シリーズ第3巻「英語教育音声学の試み—イギリス英語のイントネーション研究—」（日本英語音声学会）などがある。



# 夢を生きる 卒業生の今を知りたい CARRIER MESSAGE

## 話して聞いて理解して自分のものに

Link Web IPU

西和賀町役場保健福祉課(保健師) 小原 晶子さん

●看護学部[平成21年3月卒]

看護師と保健師の資格をもつ小原さんは、看護学部時代、自分は看護師になるべきか保健師になるべきか迷っていたといいます。

「4年次の保健師課程の実習を西和賀町で経験しました。西和賀町は、保健活動に対する地域の理解度がとても高く、人情に温かさを感じました。私を温かく迎えてくれた、この元気な人たちが、いつまでも健康でいてほしいと強く思いました」

元気な人がいつまでも健康でいてほしいという思いが、保健師への道を歩むきっかけとなりました。健康を守ることこそ保健師の仕事だと思ったのです。

「仕事柄、地域のみなさんと接する機会が多いのですが、先輩の人と接する際の言い回しのうまさや聞き取る力に驚いています。話して、聞いて、理解して、自分のものにする。それが目下の目標です。人と話すことが好きな私には、この仕事が向いていると思います」



## 気づくことがすべての始まりです

宮古信用金庫駅前支店 山崎 亮介さん

Link Web IPU

●宮古短期大学部[平成20年3月卒]

金融機関に勤め社会人2年目を迎えた山崎さんの職責は、得意先係。個人や店舗を訪問し、集金、定期預金の手続き、金融商品などの勧誘が主な仕事です。

「私は、お客様との雑談も仕事だと思っています。担当する地域の中でも魚菜市场に得意先が多くありますが、市場の旬の変化、店舗の仕入れ品の変化を察知して話題にします。家庭の玄関先に飾られたお花に気づいて話題にすることもありますね」という山崎さん。

山崎さんは、お客様に限ることなく、人と人との関わりでは、きっかけづくりがとても大事であり、良い関係を築くためのきっかけとなるのが、「気づき」なのだと考えています。

「地元の大学に入学して、多様な考え方があることを知りました。自分のことだけでなく、まわりを見聞きすることができるようになったと思います。大学での充実した貴重な時間がなければ今の自分はないかもしれない。気づくことがすべての始まりだと感じています」



元気です県大生

# 私の未来設計

On Campus

やりたいたいことが  
あったら  
私に言ってみて！

学生ボランティアセンター代表

社会福祉学部福祉経営学科3年

千原 愛さん

## 福祉の 社会システムへの目覚め

千原さんが社会福祉のなかでも福祉経営に関わる仕事をしたいと思ったのは、高校3年生の夏のことでした。

「はじめは、直接ふれあうことを考えていました。でも、北九州市でライフラインを止められて亡くなった方がいたことをニュースで知り考えが変わりました。こんなことはあってはならないと強く思いました。ですから、社会福祉のなかでも福祉の社会システムを考えるようになったのです」

福島県出身の千原さんは、進学のために社会福祉学部のある大学を探しました。関東圏へ進む道もあったのですが、迷わず県大を選びました。

「あまりごみごみしたところが好きじゃなかったんです。落ち着いてじっくり福祉を考えてみたかったし、県大の環境が気に入りました。だって、こんなに自然豊かで静かですよ」

## 社会保障や生存権を学んで 気づいたこと

現在は、福祉経営学科の福祉システム教育群に所属する千原さんですが、社会保障や生存権を学んで考えさせられたことがあります。

「貧困や生活の維持に関心を持っていたので、社会保障の歴史を学ぶ中で、生存権そのものが認められるようになったのは最近のことだと知り驚きました。みんな意識して考えなければならぬと思います。生きる権利を簡単に見過ごしてはならないと思います」

● **岩手県立大学** **Link・Web IPU**  
**学生ボランティアセンター**

■ **概要**

学生ボランティアセンター（ボラセン）は、岩手県立大学構内に設置された学生ボランティア、学生ボランティアサークル、地域の機関・施設・住民・住民団体のために開かれた活動交流施設です。

平日の日中に学生スタッフが入れ替わりで常駐し、地域住民や地域の機関・施設などの「ボランティアをしてほしい」人からボランティアの依頼を受け付け、「ボランティアをしたい」学生に紹介しています。その他、独自に企画したプロジェクトによりボランティア活動を実行しています。

地域と学生の交流を深めながら、学生が社会参加・社会貢献をしていくことを目標として活動をしています。

■ **主な活動プロジェクト**

● **Do Nabe net**

「鍋」というツールを使い、地域の人たちと交流をし、地域とのつながりを作りながら地域のニーズを探り、今後のボランティア活動に活かすための活動です。

● **スノーバスターズ**

大学近くの川前地区は高齢者を多く抱えています。冬になると雪かきは大変な作業になります。そこで、学生で雪かきを手伝おうと立ち上げた活動です。

● **滝村隆規くんプロジェクト**

平成19年2月5日に行方不明になった滝村隆規くんを探そうというプロジェクトで、平成20年10月に始動。ピラ配りを通し、出来事を知ってもらおうという活動です。

● **畑プロジェクト**

畑プロジェクトとは、畑での作業を通して地域の人たちと交流しようというものです。交流を通して地域のボランティアニーズを探り、「地域を耕そう」としています！

● **IDOプロ**

アーティスト兼福祉職員のNORIEさんが描くポストカードを販売し、フィリピンへ井戸をつくる資金にしようという、始動したばかりのプロジェクトです。

● **ホームレス支援ボランティア**

「盛岡市ホームレス冬を支える会」からの依頼から始まったものです。食糧や衣類を届ける活動をしています。

● **親父キャンプ**

忙しくてなかなか家にいることのない親父。そんな親父の普段では見られないカッコいい姿を夏のキャンプを通して発見しよう！という企画です。

■ **運営時間** 10:30～18:00（月曜～金曜）

■ **電話・FAX** 019-694-2835

■ **E-mail** vol.center.ipu@gmail.com

■ **ボラセンのホームページURL**  
<http://circle.iwate-pu.jp/~vol-cen>



畑プロジェクトで使われる大学構内の畑にて、左から伊東駿平さん、千原愛さん、山川裕香さん、清藤佑香さん



恒例となった炭火焼肉パーティーで地域のみなさんとボラセンスタッフ



ボラセンの窓にはボラセンがどんなところかわかる標語でいっぱいです

情報の発信は  
この1台の  
パソコンから



**ボラセン代表になって  
細かいことに  
気配りするようになりました**

学生ボランティアセンター代表となった千原さんの日常は、超多忙？なのでしょう。講義に出席する以外の時間は、ほとんどボラセンにいますね。忙しいとか苦だとかは感じたこと無いです。人のつながりが大事だと思っようになりました。学生と先生と地域が一緒になるからこそボラセンの活動ができるのだと思います」という千原さん。千原さんは、自分の役割は全体を見ることだと考えています。ふだんの会話の中で個人とプロジェクトをつなぐためにも細かいことに気配りするようになったといいます。

**秋の実習を  
楽しみにしています**

3年生になって将来を考えるようになった千原さんですが、今は、秋の実習を楽しみにしています。

「実習は福島県の社会福祉協議会に行くことになると思うのですが、ボラセンの活動の中で地域に関わることをやってきたので、他の地域も見てみたいと思います」

千原さんの意識の中には、2007年の新潟県中越沖地震でのボランティア活動でお世話になった社会福祉協議会への感謝の気持ちがあります。

「ボランティア活動を初めて新潟で経験したのですが、外から来る人を大切にする気風のあるみなさんでした。私もそんな人になりたいし、できれば社会福祉協議会での仕事に就きたいと思うのです」

平成  
21年度

## 岩手県立大学公開講座

滝沢キャンパス講座

Link-Web IPU

受講者募集!

### 受講無料

どなたでも参加いただけます!  
※事前にお申込みをお願いします。

●開催期間 平成21年 **6/20~11/7** 土曜日 ●講義時間...10:00~12:00、13:00~15:00 ※講義開始1時間前から受付開始  
全7回 ●開催場所...岩手県立大学滝沢キャンパス 岩手郡滝沢村滝沢字菓子152-52

#### 講座のご案内

#### A 特別講座

中村慶久学長による講演

#### B 教養講座

本学の多彩な教授陣による  
教養講座

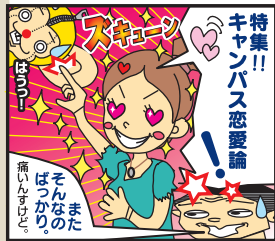
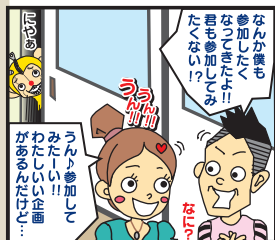
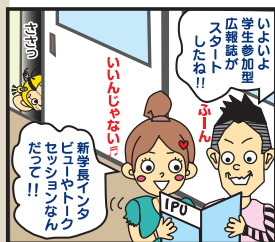
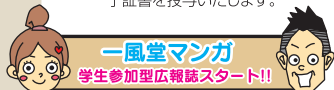
#### C 大学院特別講座

本学大学院の教授陣による  
専門性の高い教養講座

#### D 研究成果発表会

地域貢献性の高いテーマに  
ついての研究成果発表会

※5講座以上受講された方には、修了証書を授与いたします。



6/20 (土)	A-1 特別講座 <b>わたしの産学連携体験</b> 岩手県立大学 学長 中村 慶久	[13:00~15:00]
7/18 (土)	B-1 教養講座 [10:00~12:00] <b>自分流の洗濯を選択する</b> 盛岡短期大学部 准教授 菊池 直子	[13:00~15:00]
7/18 (土)	B-2 教養講座 [13:00~15:00] <b>中国の社会福祉事情—高齢者問題を中心に—</b> 社会福祉学部 准教授 張 京萍	
7/25 (土)	C-1 大学院特別講座 [10:00~12:00] <b>インターネットの健康情報活用名人養成講座</b> 看護学研究科 教授 山内 一史	[13:00~15:00]
7/25 (土)	B-3 教養講座 [13:00~15:00] <b>三陸地域情報システムの話—宮古短期大学部での取り組み—</b> 宮古短期大学部 准教授 昇高 茂樹	
8/1 (土)	B-4 教養講座 [10:00~12:00] <b>ヒトとモノと結びもの—ユーザエクスペリエンスの考え方—</b> ソフトウェア情報学部 講師 伊藤 久祥	[13:00~15:00]
8/1 (土)	B-5 教養講座 [13:00~15:00] <b>高齢者の健康づくりと在宅ケア—介護予防から看とりまで—</b> 看護学部 教授 山崎 摩耶	
10/10 (土)	B-6 教養講座 [10:00~12:00] <b>現代の人的資源管理—人間観と管理施策—</b> 総合政策学部 教授 岡田 寛史	[13:00~15:00]
10/10 (土)	C-2 大学院特別講座 [13:00~15:00] <b>林業における情報技術</b> ソフトウェア情報学研究科 准教授 新井 義和	
10/31 (土)	B-7 教養講座 [10:00~12:00] <b>「環境知性」の醸成を目指して</b> 共通教育センター センター長 幸丸 政明	[13:00~15:00]
10/31 (土)	C-3 大学院特別講座 [13:00~15:00] <b>グローバル化する世界におけるイスラームと社会</b> 総合政策研究科 講師 見市 建	
11/7 (土)	C-4 大学院特別講座 [10:00~12:00] <b>犯罪心理学の心理学—人は犯罪になにを求めるのか—</b> 社会福祉学研究科 教授 細江 達郎	[13:00~15:00]
11/7 (土)	D-1 研究成果発表会 [13:00~15:00] <b>研究成果発表会</b> 地域貢献性の高いテーマについて研究成果を発表します。	

**申込方法** はがき、ファックス又は電子メールに次の事項を記載のうえ下記連絡先までお申込みください。  
氏名・年齢・性別・住所・電話番号・e-mail・これまでの受講の有無・よろしければ職業・利用交通手段

※一講座の受講でも、すべての日の講座の受講希望でもお申込みいただけます。各講座5日前までにお申し込みします。  
※同じ日の午前と午後の講座を受講することもできます。  
※受講お申込みいただいた場合は、別途受講のご案内をいたします。  
※ご記入いただきました個人情報につきましては、十分に注意を払って管理し、講座の運営のために使用させていただきます。また、本学から各種講座のご案内をさせていただくことがあります。

お申込み先 **岩手県立大学 研究・地域連携室** 〒020-0193 岩手郡滝沢村滝沢字菓子152-52  
お問合わせ先 ●TEL.019-694-2027 ●FAX.019-694-2028 ●E-mail kouza-09@mi.iwate-pu.ac.jp

みんなあつまれ! **ボラセンからのお知らせです!**

**広報誌メンバー募集**  
広報誌と一緒に作ってくれる学生を募集しています。企画したり、写真を撮ったり、インタビューをしたり等、自分の特技を活かしながら広報誌を作ることが出来ます。

**馬っこボランティア募集**  
大学のお隣「馬っこパークいわて」にて、厩舎作業、ウサギ・ヤギのお世話、館内のお掃除などのお手伝いをしています。動物のお世話を学びながら動物たちに癒されています。ボランティアを募集していますので、興味のある方は、馬っこパークいわて(019-688-5290)までお問い合わせください。

**IDOプロ**  
岩手県立大学学生ボランティアセンターでは「IDOプロ」というプロジェクトを行っています。このプロジェクトでは、ポストカード販売と募金活動による収益金でフィリピンに井戸を立てることを目標にしています。水不足に悩むフィリピンの人たちに豊かな水を届けるため、これから頑張っていきます。